ハンドマイク街頭演説原稿例　危険な岸田大軍拡（改）

二〇二三年一月七日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　岸田自公政権が、日本の安全保障政策を根本から変える「安全保障３文書」を閣議決定しました。敵基地攻撃能力を持つことをはじめ、過去に例のない大規模な軍拡に突き進もうというものです。他国から侵略されたときに対抗する「専守防衛」に徹し、他の国に軍事的な脅威を与えない、という大原則を踏みやぶる、「戦争国家づくり」の方針です。

　岸田政権は「安保３文書」にわざわざ「専守防衛に徹する」と書き込み、専守防衛の原則は変わらないと強調しています。ところが同じ「３文書」には、トマホーク・ミサイルのような射程距離の長いミサイルなど、攻撃的な兵器や装備を大量に買い込む計画も明記しています。これでは、政府が口先で何を言おうと、日本が他の国に軍事的な脅威を与える国になってしまうのではないでしょうか。だからこそ、さまざまな立場の個人や団体が、「安保３文書」に批判の声をあげているのだと思います。

　相手国の基地を攻撃するという敵基地攻撃能力ですが、特に問題なのは、安保法制・戦争法によって集団的自衛権を認めたことから、日本が攻撃されていなくても集団的自衛権の行使だといって敵基地攻撃をする可能性が出てくることです。日本弁護士連合会、日弁連が発表した意見書に、今の日本が敵基地攻撃能力を持ったらどうなるかの分析があります。「日本が敵基地等への攻撃に踏み切った場合、その相手国は当然に日本に対するミサイル攻撃その他の反撃をすることになり、日本はその相手国と武力の応酬を繰り返すことになる」「想定される限りそれは米国と一体となった共同行動でもあり、日本は引くに引けない事態に陥る」「多大な国民の犠牲と広範な国土の荒廃を招き、再びこの国に戦争の惨禍をもたらすことが、真に危惧される」。こんな日本にしてしまっていいのでしょうか。

　みなさん、日本共産党は憲法９条を生かして東アジアに平和をつくる「外交ビジョン」を提案し、その実現のために国内外で全力をあげています。敵と味方に分かれてぶつかりあうのではなく、すべての国が参加する平和の枠組みをつくるというものです。アセアン・東南アジア諸国連合がすでにこの道に進み、もめ事を戦争にしない努力を重ねています。このような枠組みを東アジアにつくることこそ、東アジアを平和な地域にする、もっとも確実で力強いやり方だと日本共産党は考えています。

　みなさん、軍備増強に国の予算を振り向ければ、私たちの暮らしを支える予算や制度が切り捨てられることは目に見えています。どこをとっても国民のためにならない岸田政権の大軍拡をやめよの声を、ごいっしょにあげましょう。日本共産党は国民の声を無視して暴走する岸田自公政権を終わらせるため、全力で頑張ります。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）